

人は罪を犯し続ける。
人は人を愛し続ける。

湖の女たち

福士蒼汰 松本まりか

福地桃子 財前直見 / 三田佳子

浅野忠信

原作：吉田修一「湖の女たち」(新潮文庫) 監督・脚本：大森立嗣

製作総務・配給：東京キッズ・コアク

thewomeninthelakes.jp X@thewomeninthelakes ©2024 映画「湖の女たち」製作委員会 (C) (TM)

これは、現代の黙示録

圧倒的な没入感で、あなたは〈真実の目撃者〉となる

100歳の寝たきり老人が殺された。誰が、何のために？
現在と過去——湖に葬られた恐るべき記憶とは——。

介護施設での殺人事件を発端に、想像もつかない方向へとうねり出す物語は、重層的な構造と壮大なスケール感で観る者を圧倒する。一心不乱に真実を求めて貪り合う登場人物たちの姿は、闇夜の湖畔で艶めかしい“生”の輝きを放つ。その愚かさや愛おしさ、汚れとイノセンスの両面をまっすぐに見すえた本作は、観客に人間という存在の本質を問いかけるかのようだ。

この野心的な映画でダブル主演を務めたのは福士蒼汰と松本まりか。身も心も剥き出しでさらけ出す覚悟を要求される難役を渾身の演技で体現した。トラウマを引きずる刑事に扮した浅野忠信が、ただならぬ凄みに満ちた存在感を發揮。そして福地桃子、財前直見、土屋希乃、穂志もえか、三田佳子が、幾多の謎や罪に触れる“湖の女たち”を演じ、このうえなく濃密でスリリングなアンサンブルを披露している。

原作・吉田修一 × 監督・大森立嗣

— 待望のタッグ再び。闇と光の根源へと挑む。

『バレード』『悪人』『横道世之介』『怒り』など数多くの小説が映画化されてきたベストセラー作家、吉田修一と、多様なジャンルの話題作、問題作を世に送り出し、近年も『MOTHER マザー』『星の子』で絶賛を博した大森立嗣監督。モスクワ国際映画祭審査員特別賞ほか国内外で賞に輝いた『さよなら渓谷』以来、10年ぶりに両者のタッグが実現。炙り出される過去の“原罪”と、未来への光。その拮抗が終始、観る者の理性と感性を激しく揺さぶる、比類なきヒューマン・ミステリーが誕生した。

今、世界は美しいのだろうか——。

事件の捜査にあたった西湖署の若手刑事・圭介とベテランの伊佐美は、施設の中から容疑者を挙げ、執拗な取り調べを行なっていく。その陰で、圭介は取り調べで出会った介護士・佳代への歪んだ支配欲を抱いていく。

一方、事件を追う週刊誌記者・池田は、この殺人事件と署が隠蔽してきたある薬害事件に関係があることを突き止めていくが、捜査の先に浮かび上がったのは過去から隠蔽されてきた恐るべき真実……。それは、我々の想像を超えた過去の闇を引き摺り出す。そして、後戻りできない欲望に目覚めてしまった、刑事の男と容疑者の女の行方とは——。

福士蒼汰 松本まりか
福地桃子 近藤芳正 平田満 根岸季衣 菅原大吉
土屋希乃 北香那 大後寿々花 川面千晶 呉城久美 穂志もえか 奥野瑛太
吉岡睦雄 信太昌之 鈴木晋介 長尾卓磨 伊藤佳範 岡本智礼 泉拓磨 荒巻全紀
財前直見 / 三田佳子
浅野忠信

原作：吉田修一「湖の女たち」(新潮文庫刊) 監督・脚本：大森立嗣
プロデューサー：吉村知己 和田大輔 音楽：世武裕子 撮影：辻智彦 美術：大原清季 照明：大久保礼司 装飾：通藤善人
原案：吉田憲雄 編集：早野亮 衣装：藤原寿樹 ヘアメイク：豊川京子
助監督：小泉敏也 制作担当：大田暲一 アシスタントプロデューサー：庄司智江 責任協力：FINOR
監修：鈴木聡 監製：東京テアトル 音楽：アグニータ 制作プロダクション：ヨアケ 企画協力：新報社 協力：音響ロケーションオフィス
製作委員会：東京テアトル アグニータ テンダープロ 日本映画振興財団 ハピネットファンダム・スタジオ
ヨアケ 平塚プロジェクト グランマーブル ハピネット・メディアマーケティング
thewomeninthelakes.jp @thewomeninthelakes ©2024 映画「湖の女たち」製作委員会

5.17 fri ロードショー

オリジナルポストカード付ムビチケカード販売中！
一般券 1,600円(税込) ※一部劇場を除く ※数量限定